

第 節 庄内藩の降伏 新徴町の組屋敷	51
第 章 組士の転身	53
第 節 松ヶ岡開墾事業と脱走・離脱	53
第 節 平組士たちの実像 千葉弥一郎	54
第 節 旧新徴士会と清河八郎顕彰運動	56
第 章 おわりに	58
第 節 清河八郎・山岡鉄舟がいなかったら、新徴組・新選組はありえなかった	58
第 節 新選組・新徴組の歴史的作用	58
第 節 多摩地域と庄内地域の歴史意識	59
展示品目録	60
BGM制作余録 幕末 庄内の旋風	63
清河八郎・東国尊攘派の巨魁	
新徴組 ……全国の志士、庄内藩にどう	藤田 勉 西脇 康
第二篇 研究集録 巡回特別展 新徴組	65
第一章 庄内藩江戸市中取締について 付新徴組史料解題	今野 章
第二章 訓読文 清河八郎 潜中紀事 一〜四	石島 勇
第三章 新徴組士千葉弥一郎未刊著作集	西脇 康
第三篇 新徴組史料調査報告	149
第一章 新徴組関係史料集	151
第 節 鶴岡市郷土資料館所蔵文書	151
1 元治元年(一八六四年)〜慶応三年(一八五七年) 新徴組御用記	151
2 中村一麟日記筆叢 十(抄録) 慶応元年(一八六五年)	168
3 中村一麟日記筆叢 十一(抄録) 慶応四年(一八六八年)	169
4 文久三年(一八六三年)十一月九日 上野直記宛鞍貫藤三郎書状	171
5 大正三年(一九二四年)二月一〇日 石原重俊宛千葉弥一郎書簡	171
第 節 鶴岡市湯田川温泉 単人旅館所蔵文書	172

1 慶応四年(一八六八年) 新徴組士喜瀬十松 道行文	172
2 明治四一年(一九〇八年)五月 新徴組残留品提供の記写	172
第 節 富士吉田市歴史民俗博物館所蔵・寄託文書	172
1 安政五年(一八五八年)中秋 書して同志に贈る「伊香保温泉に遊ぶの記」清河正明著	172
2 文久三年(一八六三年)三月二八日 浪士組入隊につき御届書	173
3 文久三年(一八六三年)三月二八日 浪士組入隊につき御届書案	174
4 文久三年(一八六三年)一〇月 浪士組入隊につき御届書	174
5 文久三年(一八六三年)十一月二五日 新徴組御委任につき老中被仰達	174
6 文久三年(一八六三年)十一月 御府内昼夜廻りにつき老中申渡写	174
7 文久三年(一八六三年)十一月 新徴組庄内藩主へ御任せにつき老中達写	175
8 文久三年(一八六三年)頃 新徴組之内武蔵・上野・甲斐三箇国より罷出候者之中土着願上候ニ付心得之件々大概	175
9 元治元年(一八六四年)二月 御家人身分止宿等之大法につき申渡	176
10 慶応元年(一八六五年)二月 庄内忠義之大名え出府前御渡相成度御書面之案	176
11 慶応元年(一八六五年)九月六日 口上覚	176
12 慶応元年(一八六五年)二月 旗本切捨一件につき諸達願写	177
13 慶応元年(一八六五年)二月 旗本切捨一件につき諸達願写	177
14 慶応元年(一八六五年)二月二七日 旗本切捨一件につき申達写	177
15 慶応二年(一八六六年)正月朔日 庄内藩主・新徴組取扱頭取へ幕府御褒状につき披露之御達写	178
16 慶応三年(一八六七年)七月 新徴組士風につき肝煎一同口上覚	178
17 慶応四年(一八六八年)正月一六日 新徴組御屋敷桑原様御宅桑原甲斐宛土御門殿御役所差紙	178
第 節 東京大学史料編纂所所蔵探訪写真帳(抄録)	179
1 万延元年(一八六〇)七月日〜慶応二年(一八六六)六月 修行日記帳	179
第 節 甲陽都留郡上暮地産早川文太郎源義信	179

英文目次

第一篇 巡回特別展

新徴組

江戸から庄内へ、剣客集団の軌跡